人のりいえるとろなくうけてはとれて飲べいま かされいえるあうるてかとなるりがうしろうかいけ 養生就老文三 你是一個明 命乃中也你食べば今代書をいある飲食の書 八生月風き一の補かてず日とうこうしませ のなりす飲食られて押間すのもうなでは とゆうりは病がよし命以失かよる病は物で 機会であたなかしいなのめむちゃっとの そろよれをかっつけいとれであるころで解す とういろうないといけしてない神智できる

からかうなくれなどはとれてかってれれしたと 何かく熟してけるすて和らうかろしちくない 人はりししかなどう事かり事るりしろてなて なとなくとはなったとけいけまするです られいじちからしてしる大地でしる面しぬる とべてといれてとる血液となっと 月を過かくした飲い脾胃でやうを月ときな さんし らってるにりつてろうのかりときるはい めるべれてきやくしてあめせいち人猪いい 虚弱のくってしなりて棚のかくするは客 節の検要名作うくして一場吸吸神智 とでいるのはんしてうり数のないはつくし 七三人者はの通火牌男と聞ると多く子牌男と とうろうまるあのなるもっちてはまちょうかり えくんりまっの保書を変しませんと飲食を言わって 化一至我做心動府るれるる施府の神胃の意 そのが表しるう

飲食れるとなんなうもいれ場なるでき なろうなる対としてんかかろうなべします えつなであかるおろりしなしれ機の成れまく 進ってくる人できなかとうとうことに行の人できった」といいこからどりかりていとうとは飲食の飲べ わく打よ肉からってり は肉でつけて食べてずゆとやらしまま肉 を一周ところなべくんで肉まくろらんだっす としまりろし肉を一番了るして打いこれまする なべんうびは今は使かりありたうとしかつわ まかのつくさいううれているなろかもできるかん と一合とうとてまとめいて版化を八周記 て産人らわ げりいうれできょうらで~なよういよい聞気 とつしくみめいてははきかしわりでとくすまえ わして一会飲らる何らまりとうくている 船がなろくして らしるがあるようはろべしいとうとも いしこんまでもそれてきとしてうずんのちょ 限病からどう くける場であるるんなろとで

しる他と後の後のろかかかれる彼ところのと 天味偏格といっはとうく合いすとなすられるんい 金の変はやしついるかかりかとまり人物でくうついてると いっく人がヤーナいなっくくて客にある教了す くころろうくろれ遅とけて脾胃とでなると せしいありしくしろんろうとうころとう おくりていまさわられてむとうてあるうたと えらっするるなどをかてかけるでであいればないとうないとれば 押用のせれどれとして しんとうない そこかべつですなかん食物の性くして多人やし 然合をあるというしてみるはのかはいろう てるというでうわかをいりは殴みてないると なよるものないついるとんで食べしきるく のこういくわこうらなるると歌回しく見後の へはりゅうかのころいて味のよれどろれてきく で客かり 南と海菜を何一地ではけてなられで海を ころうなくるわるくし思わるもはれるり して投からわはらしとくととうくだっに過かし

飲食の人べんといいいいいまりてちょうと あるとうへいそうてはすくなとべーゆるようまし 食して可やらんべつどり一分後小会なんともで らならかりと最みつのするかくは後の欲るいる り谷て娘と城らくし 行政はなくくうい成はほとくがれたとか れて通れのようとはつくろいわきろらんまであ もるようれや京東るは彼いかかの食りり ひけるネーダー みて限るりてでんとかりゆるちいてれるよう てなり品はとかっなとくしというとうとんと 食しやちくきとくなとまけめく食して大きるからの そろとはららどと思くるなどをの切りすべ 他の食のとううとないるころはれしてくって 多食をごうば多いなしてなりこなるとをい うるる味で暑で下されても人の姿ををきり て大は言わりあさかってあるしんがあいまけ なり彼ときくう八脚男とやうえ気がきく

作りしていなというてもるとなったい とけるやしわいうななるはしあるりはとろれてか 然合とのよびろうひとかりかんくろうきょうとう The same of the sa うじまれ付かりというえるととらふってき かせれてろかくるもまるよろか人の言をなること かのうろうれからうはしまくまというとくとべ そうなりかいまれかいくおしいうかととう を願いのひつうはるのひきとるくしてかのじかし 会きででは食りましかり病化しては すとわりえずらうなべへのかりいとに食幸場 幸がからしてお合すととるってからるし えしているんかんれなかとうこうすからい うとべ一情化せる内はおくをであくかれる そとかっとかしのようというとて七八かってれた してはるとすいとからきを言るしかもし かるとのとかとかけかしろくべいからえ せざっくを使食のなるようべいかくうせく食 るとしら人はよくやひだし、飲食してなるなす

食とう付め思わり一ていななのするあのちいやくし 何会ところうとかいる内食の所もつくと らてかかってるしから 我らてるなるとなりからうまなしるないとうなりとうなっているとうなっているとうなっているとうな中していきしょうな中していと と見てこう後中と記り方式合致場とらう間面 とそうかいてうしか 胸合とこととしているかなといっていうできま りるととうべうい成る又からばてる 切りてくらくの意所うけ年長してらるます とうないる食敬しかりてるなけてせろからうつと りくてみてんこりかいるできてゆるくろんようと が内よれかしわらるってはいれてぬなんとうか らいてきからしちるを了次春工高のもからうる ももしい後中で放射方代我場とする也然食 かえてうれの敬ううちくうとあるるとはんと 紀後此人のまでうろすりりも又を食のあるをと たうりと強名でかして防我すりかり大幸なく

久食い初食りはやらくはれしてした食い をすめるをはれるというというというとうできてたるい人教かくしてままて変してをあるのからしてれ ろしおとう回見とうなりこよいいなりと変更 陽男とそとかなっか白板とやろう小奏でかり いをうてき食せべけぞくないます 数分して他りからできるとうなっているる とおそはいろしてお見りをぬかりまいて それでぬえ食とうべしにいみ思り内一二つうしと るすに合してあいとのかりますてぬる食は ないりとれる教ともくまくういれ飲の来と わると且酒をわりてんべるしましか記血と助く し 死と信奉」となけつ天記してもあてるど も大からなしわりられるいと石の関係られしと 多一路線の食りとわくるうしありそでなら くろべかけらといりつかるくしているはつき 好うろきをなしによいせよられりまして人 うくきるといりしてことられるためるか はらりう料さいなませてあるりをあい

なりとちり色けりざれ肉のやうとうくくのわしこわ 飲食の内飲い他られでれてぬけどわりとう 臭けわりさねるとなるとうしかつれもろうです らば食べぎったむり やころでやらく見どうてやめのなるるくなべったがとうないないないでするないまではまないまではるないでするできているのかのはくかってきてきてもったり からうりつろくはらめばろしなり、吹食しな でかっちとうらいのれるめってきりもなったったって 名夕の食むるわっとんどうくべんばみようて 八枚多いでしていれまくなべてはある 付からじるおうろうでも海をしつとうな 聖人乃食一路公ろわるり要人外外信人 会へ級がかとれるの食をなりあるれていての動していしかがという肉で多く食べてす 者ははけつまかりはとらいし又肉いろうれざらぬ 肉のなくろかめけて頃れしからしまる食 からうりて食べらくか教が書へ一葉の数 級がわざんたろかり肉いわっすしても不多に

傷食のあるで飲食でかるしは食とけられま よろんのないないしとろうがくらべし与うなないというというないないとうかられるないないとうかられるとうないというできるというとしているとうないとうないとうしているとうないとうしているというというという 押胃産弱の人対を人い飲食」やうんでく 人からな乳がからい数のあるようて気を 四日前来であるられがらりをてるられて かして成でちろうするとといろしつ 高夜~~·的病也即对了害的奶的的时间 まのたまれるい思の冬かり 害的物的的問人傷的上人食人了人 とうとなわりおえるうろうん よぼら一意名の肉魚名れいかせまい 岐じこかの三はらべし食傷の内とるく 過過 はしく飲食しいろできるでしたしてうん 教い内よういべし肉を数よろうじてするとう 八青一穀肉充乳了格て八大一又方人の言」 よくしてかが、教肉がいた乳でゆくぞしき とこってえるとそうかべつずる私教内まそ

煮らして経とそのうわしてる大きせであれ でくるないいったろうべもまけれるとき 初食いてはれてとんいる食とうとを終んかと れなかり とくむべっであるようと対しな傷のるべつ て経と大かろいはかくけくやらしくとその節 あるなとしてと言う一种 あろもぞくなる うらくううずられからうしきないかしくなるつ 島がかろうるのろろんはつしばするなきある国は国 あり魚が蒸いかくししくししても何ときか子 食でせるううちくいかし飲食をたてい物をいまとり 献のおねらられとうき物とちだんどなり くからはううる場合くはしまとかろううと 寄よろう 城一個肉がうな一切る食物ではらる事飲 あれる食なはりて理例会とくうずあす る生薬みなくろうべうりん そしてるまなはつ道うな人は時人なるう らりかっていき食いまくはせらんなを食らくつくい して食べのね」とよく食でとくしるぬんある

えの食物なろうしきはあわるかろうなうるうる そけられを肝胃のそのいあかるい神しかっまる 你なの歌いもろうからうあまぬかろくといから らきぬまうるもとかろうすれてあるじあのかな うくうこくとうかりやとしろくべかり次 老人ではているがうけてれらるるうい食傷と くして臭むしく名とゆとうろうな知られる 詞となけるとけるもままあのなりという むけ程わりといくとけるすくに多なとして必ら 久歌いやかかくきとと飲食の歌られる 多一次面もれくいろは多ったからりから くりてようんまでるつてあると 今らっているなるといれるというないますることのなる ちいてかかわりはもあくろくなどとわらせある とれどろりついき去が動とうとといるはのうち 本るの板かしるそなねるでしらかんありり はしたいかけるいろうなるうてもかつ いるあるし

大島いかありゆうくつうるやと一种産の人と 神虚の人、皆動とわずて食らる」でしまっち 生英はいうくって含されいけれわらなよく彼ん 一て会かし教堂の神るするれのとはとしてか裏を店をろうへいつねるをもれめとはりしてか はうわっていれるめくおうるかはっていると いからな後一合きれるかっては曹を 多食をうったたろく切て食いたっそが大から うりつうるの小島の変で食むるよりしてある。生 ノいいておきたろいつでんやとしたく切てきるへー 健 納たよい成かりできょういもべらううす たとしば スーとれではようが見ばるでとしてこの内蔵 く切べ一部前朝神葡萄見花福台~色大喜 とつけるを発表て食べいりをかくしゃ で選終しくらしゅつけい一あのころかり 、するもけるのかからのくなべしきあってき かしきしるとうもなくるとうにいまりろうしの かもみとみてくり

内一多給いくすらと)動めらべしむさっかというを 悪程く勝ちら画食べりの真のその他多 花動の肉い日かり人勝用活路からなりは一分 と色わざりけるる場外でくけけるより一ありるて 食っては敏鏡でしょうっとやらしたとせん ゆのくるうと含くだしかい老人病人合かっ ど個化して了的は来酸の例又熟し己て同 ことううろと かりはやらしけなどろではありただでよし 肉或ゆるつけてスーシ肉とちはあかところろ はんしかうち食べいりが表ろうちのは色の はのわつというてして他多しなかずあした どろくなべつすらは草あると多くなべつび くらかくと彼れれらういり、肉色素と大な切る 個化しでしるる時みれかでをしていむとうと おくいなうかんなんとうとうこうてつてんやらう へしくべばっとから かわふううとく切ってあるとう食一件よがあり やとくして、よっては考さしていかく他多さ

はって勝りてあるかかんなりとおけてると 押胃電しては変というなるまで黄金へ 食わりまはとうんりようなてぞうわいまとしちり次 養てかと推動はある事と記る了松電 根外養草なれらどの根ろきもうちので うけりまからもはを雇人の食をかりをして一枚れる 追演了一重盛切て作了一条ほけりとりから その説為とうとくのてはなうなりなんで とかなしては職場できるなべているとを表する ちらいろかなからとんようなとばして客とう てからなるのもとし かだるが変数すれずるしょうなとし一奏 だらわかなくべつがくえるはらんようかりたか れいようくかとは虚人」は一起まること りはとうこうははらくってましついでかいまく くめて言とからたとい教かたかよい的りしく 海京八八十世多人塞人了道了次品布多 食い乳とからく 一味らかくもんれしいる

一食いする流化せでして食べまでぬすれて食るべ 押胃のころいてきるとあるそろくないねとなり 脾胃のころ人もいなくられたかかわとてこれれでく 元食などいろうゆりずべきるかわり次飲食もる てなるうれの裏かり せらればあるのんとかちり多般のくとからうえ わばたくろうもうえなかのわよきしろるこ そうながのできてうが平月れぬしものとそれと や飯は二三に打八八二斤かの欲でうる人食 了我的到一口地看了一个物性年和分的在我偷偷 くうから他やろうから他」くれいしくもねなくうちと わけつうりんほうべうもちうご神をアルする野で は須里の居欲できてしありえを言いましている とからうくかろう うずる地色を肝胃れぬいわかりを肝胃の意 て食りしまい我の食ちとして色は一個人代養 席 るいってとかりるいろからられてりばえばられ とって食べるしくかるは食をうな僕やくるわと うばりうくうのてむならかれていろうとはる うちらうちくなくなかかわ

多くろういろとてぬとうろうのではできて 一般なって いけからて 飲食しょれのわけり 國食のな好能せてるどろて酒食の気でくる りるくななるないのかいますのとないるとうと ざる地震でして何ときつる地表でくりくなる 乳をラスーくというていえるまるい、後をかり うのて大いうでもいわり天死松と恐ろれた 押をやうる場で美女ろくのじろういたけるほと だうがど 柏みなり傷からわわりろうろしてはかりころのそ うなかりあるこのなる場とあとかって 名牌買からられるととく小牌胃とちと食べ パールブ その意のいする動せでるわううしてらはときつる うちのらいるめとこといういむいま 見ちまつかる動とて一変なりかり しくるのかられるころでくかなとれ必見 一百六面及風勝となって食動されて

うにいからればまるのて人のかってるないと 百人をりねしい性年れかる家でかのひべし まりとくいかるあろいはしまるしきょうけてま 内に際と合し葉の駅で食してと味でるまではなるとなっているまでいまるのでありているまでいまるからの 即胃を弱ろくむくかしい経路をれている あるっちからいるときり いるいむありからしよめれのもりへうかのひべう 多くらいて間とゆうからいくませきり であとないまとうろもしろとろうはい 奏わりたすりるいのじべんなすりるたれる とおりなるとうよう一名あいむしをぬめた おりによりてよりを含めり、既会は彼のから しきょうなしく安坐とべう次配面ではりし きるないやいべしくろうちをするべし にうなる事ると東ふれれてうる中神かとい め飲食場化してす ればってはうからくべうはは化しからし

三 あっちとのじかしどみわるろうに活つた 陽の後これこうしていたの内のいかしまあの場 食とくなる小脚男の中よをかありてた動からり そのないないとういて死からあくかか なからできるるかりははりて大都の道がからからかとか とべつずれちからり 聞よくろあか飲食しまりれやとしまく飲食 しる他からり成れたとろいあくれ大人人人人 食さて限すり刻うとうちゃからのかとない ううだしてあしかるとしまれがらったて死とも 金女くして版けるよりといろなるのからうろう通 との外版とう やらく念にんしかとくして飲食らる地で見る も必被全かりよくかいなりくとくも人い胸 とからきといんとくかくってあたりくかっとし すりろうりしいくどれてりるうてかくろうるい ひろう ならいかかてますまく飲しゃくまっても 合けって他はしるとうけるりむらせら

ははしますくとうなるとうからるかられてい 及月九萬生業多人含い此話とろくなり令水 食はよ陽素気は代教などくくしははほく牙 えるなからとして飽はして押骨ともうえるとないるのはれるとれるというと 有心とどうしていやっているとのなんとんではる 風がとうよれ過の内はひてして状食する 世へ言ていわからいて年中間ともをはあるせど と一家のなかろうとしてよしいるなはあり をしたらまくはいっと なりよれて食となり次はすとく他はしや よるしかられば飲食なましたり て言っくはんして後然会をゆじはので べっくばわしくかってとなるとなくないですか なるこま場かしちばるとある寒らてれ と多く飲めで私必種前と病した病気かく 一年中旬了て獲合国近較丹なく与人 していとうとうねてつしいち 一をは合体とは一気とからくとまれる人

は曹朝板山板葵生施生产高生葱子食の かからかは後で生にを月むりとと張りまく然をはしやちらうかして食い腸質とやし む中の公内食らりしてあとくちくからしぬき む夕坂で会むるしに初一碗い美女でり食して 幸ちりた夏月となったい脚胃潤をしてはな人化かよりとてれまとうてかちまなせばろらん るを方しいろう 魚肉をことしているるとして食経 來力化也 らとなるとを食るしまりてうううあとかっかっ う食物なるのはしたてくう きい乳でをうしとみし血をごううだ 書乳でめけ、変臭ともり 色毒ときり食乳等 て毒で殺らへし多くならべう次季であるけ 見いぞれる過からに南大は何とくべー牙ると 思っているかれたしろうが後っていてする 散ったかり 行で食せられ、饭ので味ですくなて板の味なり 色しるかにとくく文中下の茶とりもべしもな

いなよる味の行となりて乳があるうかしから 日後の村屋の名なんな人でして日あら内とる大変 一切のあるるもくいとして実力で含べしころと、晩食いぬ食りりかくとべし打肉とからして れるのをて食得してたっていかりないまでのこ かるあってい飲食の食物とやらてんの後降しまって はなるからこととうなるよろののかってきる 食いうつ道し お来乾地変でして、何ときつろれんにようかろうち をてをかしてたのんらからうらいむをかっし 食いだろり次 やらし客しかり、ていける飲食できつしてし 書かり 八萬祖生熟の民我らんまるかと前品多くる くらうい飯のりなはいちっ次多氏を町内とりし 食るだして級の味けらうとかろし葉肉多 くて大多了多く了了两一角名著機乃何至 八打多うしとしてたりやとしもうでまるようとうし 打とすしえ食い飯のふまとめ、かんはる竹で食い 一て飯で養でうの食があるるのはそ食はの

がるをうこうのから

食生割卷对三次